

県産新米 もうすぐ食卓へ

JAにしみの、トップ切り初出荷



初出荷式で新米を満載したトラックを見送る関係者＝海津市海津町江東、JAにしみの海津集出荷センター



初出荷式で新米の品質を検査し、袋に押印する関係者ら＝同

「あきたこまち」品質良好

西美濃農業協同組合（JAにしみの）は14日、県産米のトップを切り2026年産の「あきたこまち」の出荷を始めた。海津市海津町江東のJAにしみの海津集出荷センターで初出荷式があり、関係者が新米を満載したトラックを見送った。（浜田悠）

JAにしみの管内のあきたこまちは、今年の作付面積は約332㌥で、昨年の約300㌥より多い1320㌥を見込む。一般的な新米よりも早い時期に回る「早場米」で、4月中旬に田植えを行い、今月6日に収穫を始めた。

初出荷式で玉井寛之組合長は「今年も品質の良いお米になった。コシヒカリ譲りの甘み、うま味を家庭で楽しんでほしい」とあいさつした。

15日から西濃地域のJAにしみのファーマーズマーケットに並び、今月下旬から東海地方のスーパーでも順次販売される。

つ。高温障害やカメムシの被害は少なく、その後の検査では品質良好の一等米と認められた。全国農業協同組合連合会県本部（JA全農岐阜）の西村寿文本部長は米価の乱高下について「生産者のコストを考えれば安定した価格を維持していかねばならない」と話した。